

# 親子聖書日課

[日]主を信じるとは、ただ主の復活を信じるだけではありません。自分の死後、その復活の命に与り、永遠に生きることを信じることです。これは、理屈の世界ではありません。マルタのように「私は信じております」と告白することが大切です。

[月]「もう今からでは手遅れだ」と諦めてはいけません。主にとって不可能なことはありません。死後4日たったラザロを復活させました。「もし信じるなら、神の栄光が見られる」家族の救いも信じて祈るなら、救いの日は、必ず、来るでしょう。

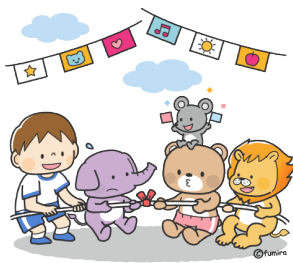
[火]大祭司は「一人の人が民の代わりに死ぬ方が好都合だ」と言いました。彼は意識しないまま、主が人々のために死ぬことを預言しました。神は敵の計画さえ利用して、贖いの業を成し遂げられます。人を動かしておれるのは、主です。

[水]救いの恵みを知った人は、主に喜ばれることをためらわず行います。弟ラザロの命を救った主に、マリアは「純粋で非常に高価なナルドの香油」自分の持っている最高のものを、最善の時に捧げたのです。私達も惜しみなく主に捧げましょう。

[木]「一粒の麦が死ねば」とは、主の十字架の死のことです。主が身代わりの死を遂げることによって、全ての人は罪と死から救われました。主を信じる私達もまた「一粒の麦」になれる。それは死が伝道の最大の機会になるからです。

[金]いつか主を信じればよいと思ってはいけません。死という闇が突然、襲うからです。「光のあるうちに」主が語られている今、主を信じましょう。今は救いの日、「光の子になる」絶好の機会です。主を信じるなら、輝いて生きることができます。

[土]主を信じる人は多かったです。人々を恐れ、人からの誉れを好み、結局、信仰に至りませんでした。今日も同じです。主は命を捨てて、私達を救われました。その救いの恵みに与るためには、神からの誉れだけを求めて、信仰を貫きましょう。



NO.1491 2017.4/23-29 名前

	聖書	問題	答え
日	ヨハネ 11:1-27	主を信じる者は、死んでもどうなりますか。	
月	11:28-44	もし信じるなら、何が見られますか。	
火	11:45-57	大祭司は預言として、誰が国民のために死ぬと言いましたか。	
水	12:1-11	マリアは何を主に捧げましたか。	
木	12:12-26	どんな麦は、地に落ちて死ななければ、一粒のままですか。	
金	12:27-36	暗闇に追いつかれないように、何のあるうちに歩くべきですか。	
土	12:36-50	彼らは、神からの誉れよりも、誰からの誉れの方を好みましたか。	
感想と祈りの課題			





